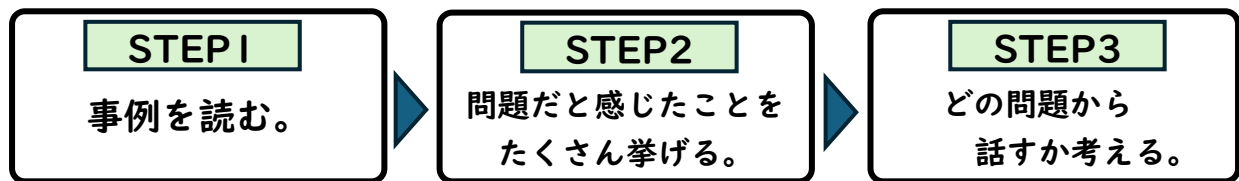


誰の問題？「きき方」シート ガイド

架空事例について考えるワークを通して、子供に寄り添ったきき方について考えます。



まずは、「誰の問題？『きき方』シート」のワークに取り組んでみましょう！



次に、挙げてみた問題を「誰にとっての問題か」の視点で、以下のように3つに分類してみましょう。

①相談を受けた教師が 感じるタカシの問題

(例)

- ・タカシはユウタを独占したい思いが強い。
- ・タカシは周囲の雰囲気を感ずるのが苦手。

②相談しているタカシ が感じている問題

(例)

- ・ユウタと仲良くしたいのにうまくいかない。
- ・ユウタの気持ちが分からずイライラする。

③タカシに関わる 周囲の人の問題

(例)

- ・ユウタがタカシに表情で不快感を表す。
- ・ユウタがタカシにそっけない態度をとる。

皆さんが話そうと思ったことは、①②③のどこに分類されていましたか

- ・タカシにとって大切なことは、自分が感じている問題(②)をしっかり聞いてもらえることです。せっかく伝えたのに、これ以外の話になってしまうと「分かってもらえなかった」「指導された」と感じてしまうことでしょうか。
- ・教師は、子供の話の中で無意識にその子自身の問題を感じ取り、望ましい行動や考え方を指導したくなりがちなのではないでしょうか。
- ・本人の感じる問題から解き放たれた状態になってはじめて、その他の問題も一緒に考えていくことができるのではないのでしょうか。

話題が教師が感じる問題にすり替わっていませんか？
まずは、本人が感じている問題に耳を傾けよう！

ご自身のケースや事例でもこのワークと同じように「誰の問題か」の視点で考えてみましょう。